

# 第13回日中韓3か国 地方政府交流会議の開催について

(財)自治体国際化協会交流支援部交流親善課

2011年8月29日(月)から9月1日(木)に渡り、韓国南西部に位置する全羅北道・扶安郡において、「第13回日中韓3か国地方政府交流会議」が過去最大の参加者を得て開催され、日中韓3か国の地方政府関係者の交流が行われました。

## はじめに(日中韓3か国地方政府交流会議とは)

当会議は、日本、中国、韓国の3か国の地方政府間の国際交流・協力をより一層促進することを目的に、自治体国際化協会、中国・国際友好城市連合会、韓国・全国市道知事協議会の3機関が輪番制により、首長や実務責任者レベルの国際会議として1999年より毎年開催しており、今年は第13回目の開催となりました。

当会議の特徴として、①首長レベルの参加が多くトップレベルでの意見交換・交流が可能、②日中韓3か国の多数の自治体が参加するため幅広い意見交換・交流が可能、③観光客誘致など自治体PRの場として有効であることから、毎回各国から多くの自治体関係者が参加しています。

## 過去最大の参加者と特別企画

今回の会議は、過去最多(532名)の参加者を数え、内訳は日本から27団体75名、中国から57団体227名、韓国から40団体230名、の地方政府機関・地方行政関係機関からの参加がありました。日本からは、伊藤祐一郎鹿児島県知事による主題発表を皮切りに、事例発表として熊谷俊人千葉市長と山野之義金沢市長により、発表を頂きました。

本年度の開催においては、テーマ発表のほか、当協会の働き掛けにより、3月11日に発生した世界最大規模の災害となった東日本大震災を受け、災害対策の取り組みについて特別討論会を実施

し、村井嘉浩宮城県知事と伊藤敬幹仙台副市長にご登壇いただき災害復興に向けた取り組みについて発表をしていただきました。

会議期間中は、「交流の広場」を設置し、自治体同士の交流などが活発に行われました。

## 主題発表・事例発表

### 1. 主題発表

8月30日の本会議では、最初に3か国の代表者による主題発表が実施されました。

まず、今会議開催自治体である全羅北道の金完柱知事から「国家のつながりの基礎となるのが地方政府間の協力である。現在、北京、ソウル、東京等を中心とする東北アジア経済圏が、世界3大経済圏に入っている。この基盤を軸に共生発展していくべき」との発表がなされました。

次に、中国の江蘇省外事事務室の黄錫強副主任より、「日中韓の相互理解により、様々なりスクに対応出来る」と、3か国間での経済交流の重要性について説明がありました。

最後に、日本側の代表である伊藤祐一郎鹿児島県知事からは、「航空路線や鉄道など高速交通網の構築により、東アジア地域の交流を促進するのはとても重要である」との見解が示されました。



全体会議の様子

いずれの発表も、日中韓の3か国が連携を図ることの重要性を示すものでありました。

## 2. 事例発表

主題発表に続き、共有すべき議題について、2つのテーマに沿って事例発表が行われました。

事例発表1では経済関連の取り組みについての発表がありました。

日本側を代表し、熊谷俊人千葉市長が、米国のヒューストン市との事例を挙げて、経済交流を通じた経済投資の際の支援・規制緩和は、双方にとって大きなメリットがある事を発表されました。

現在、国際交流は多様化しており、地域活性化を目的とした取り組みが重要であるとの認識で一致しました。

事例発表2では、環境問題の取り組みについて優良な事例の発表を行いました。

日本側の代表として、山野之義金沢市長からは、「人と自然にやさしいまち作り」の実践の紹介がありました。「自然」「歴史（文化）」「地域活動」をバランス良く設定することで、「人」と「環境」にやさしい街づくりを安定的に発展させることが重要であるとの説明がありました。

## 特別討論会（パネルディスカッション）

今会議の最大の特徴である特別討論会では、日中韓の災害の対策について活発な意見が交わされました。

日本海側からは、村井嘉浩宮城県知事と伊藤敬幹仙台副市長に登壇いただき一番の注目を集めていました。被害の大きかった自治体の首長自らが今会議に出席され、中国・韓国側にこれまでの復



特別討論会の様子

興支援へのお礼の挨拶と被災地復興状況の説明をいただきました。今回の大震災の教訓を活かした災害対策の提言や災害復興への力強い取り組みは、多くの中国側・韓国側の参加者に感銘を呼び、日本の復興の大きなPRとなりました。

結論としては、大災害には国の役割が大きく、国の対策が重要であるとの見解で一致しました。

## まとめ

東北アジアの世界における経済的地位は着実に向上しており、世界の注目の的になっています。日中韓3か国は東北アジア経済の中心であり、今後、ますますの連携が重要になります。今会議では、地域の特色を活かした交流事業の実例発表とその効果について説明があり、新たな協力関係を構築する会議になったのではないかと思います。

また、環境問題や自然災害への取り組み・協力についても、3か国自治体で協力するためのネットワーク作りの足がかりが出来たと思います。

来年は、中国・雲南省昆明市での開催が決定しました。詳細は随時ホームページ等で御案内します。

今後も、日中韓3か国の地方政府レベルでの会議開催を通じて、より一層の相互理解と発展のために貢献していきます。

図表1

開催期間	2011年8月29日（月）～30日（火） *希望者による、視察コースは本会議終了後の8月31日（水）～9月1日（木）に実施
開催地	韓国・全羅北道（扶安郡辺山 デモジョンリゾート）
テーマ	主題発表 テーマ 「地域の特色を活かした東北アジアの地方政府交流活性化」 発表者：韓国－全羅北道知事 金完柱 中国－江蘇省外事務室副主任 黄錫強 日本－鹿児島県知事 伊藤祐一郎
	事例発表 テーマ1 「地方政府間交流を通じた地域経済の発展事例及び施策」 発表者：中国－湖北省対外人民友好協会副会長 葉長青 日本－千葉市長 熊谷俊人 韓国－天安市長 成武鏞
	事例発表 テーマ2 「低炭素グリーン成長のための事例及び施策」 発表者：日本－金沢市長 山野之義 韓国－昌原市長 朴完洙 中国－湖北省宣城市副市長 韓永生 韓国－高敞郡守 李康洙
	特別 討論会 「災害への対策及び復興に対する自治体の取組」 座長：全羅北道発展研究院長 元度淵 登壇者：韓国－平澤市長 金善基 行政安全部災難安全管理官 宗錫斗 中国－四川省徳陽市副市長 何明俊 日本－宮城県知事 村井嘉浩 仙台市副市長 伊藤敬幹
参加者	日本:75名(27団体) 中国:227名(57団体) 韓国:230名(40団体)